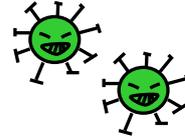
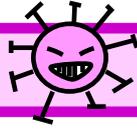


感染症に気をつけよう!

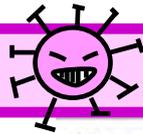
2016年【6月号】

横浜市内の感染症 流行状況

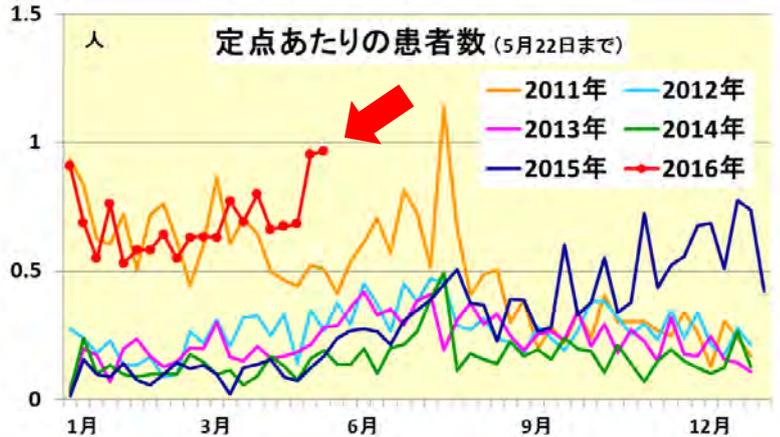


感染症	流行状況		説明
			【解説付き既刊号等】 ← クリック
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	★ やや流行	→ 横ばい	全国的にも例年より多い状況です。予防にはワクチンが有効です。日常生活での予防には、 <u>手洗いが大事</u> です。【 ちらし 】
流行性 角結膜炎	★ 散発	↘ 減少	集団で大きな流行を起こすこともあり、 <u>はやり目</u> とも呼ばれます。 <u>正しい手洗い</u> を習慣づけ、 <u>タオルの共用は止め</u> ましょう。
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	★ 散発	→ 横ばい	かぜに似た症状ですが、治療には抗生物質が必要で、 <u>腎炎</u> 等の合併症もみられます。 <u>早目に受診</u> しましょう。【 '15.3号 】

今、気をつけたい感染症 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)

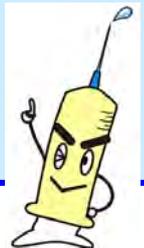


- ▶ **ムンプスウイルスが原因で、咳のしぶきや(飛沫感染)、唾液で汚れた物などから(接触感染)うつります。**
- ▶ **耳の下やあごの下の腫れと痛みが特徴です。**



- ▶ **髄膜炎(脳と脊髄を包む膜に炎症を起こす病気)等の合併症を起こすことがあり、まれに重い難聴(ムンプス難聴)が一生残る例もみられます。**
- ▶ **思春期以降では、睾丸(こうがん)炎や卵巣炎を起こす場合もあります。**

- ▶ **最も有効な予防方法は、ワクチン接種です。**
- ▶ **かかりつけ医にご相談ください。**



横浜市衛生研究所
感染症・疫学情報課
【横浜市感染症情報センター】

